

ル 4
5019



門 4
5079
巻

山東庵京山編 重岡集筆

熱海温泉圖彙

東都書肆 錦耕堂梓



叙

腕乃痛の長壽痛と云ふは老の足の
 覺え来なく來骨中ふ旧病のち身もあ
 まば熱き海の磯乃音中少る温泉
 浴せんとく盆前の蚊や里火のやいぞ見
 是男児せがれはまゝ来あれをの子乃まぶ角奴
 ちや京水城伴こまかひ七々もまゝぬのあし後
 見陽くの柳の物所よ近き京橋城あし装

足小田原まで冬二つの様身城二の延
 と横を雨も逢おのれ外郎のお登り
 ちるば右左方とふを左ふ曲りて熱海
 のそよよとくく山駕籠に離れおく
 桃尻を乗早川村も静に越へ右松山
 乃星舟夜も昼もくく米咄村の飯
 茶屋なく根府川小眠を越るさき
 おしふも冬あつて所の雪吹の山越は息

杖を憐しく蜀道の半場登り去りて江
 の浦の眺を盡はぬく赤澤山よ角力のやうな
 小揚も冬とくく主より濱よとぬげ去るめ
 熱海へ三里やゆきやとく股の殿定城の志
 再び如る筆子くつて伊豆の御社子建久の寺と
 程一熱海たぬ渡部の客舎子やとくく
 外里や西北の屏風の峰城建つて冬も
 巨槌城をくく東南の扇れ海を楽く

夏も固舟の接ぬもやぶぐら遠ま大島と
 彩雲の暮を張るのどく近寺初路の
 萌草の故屋我多む平似り沖の白帆
 ち天城摩牛しく走里磯乃知私兵浪よ
 徳て躍日兜岩おれ堂我持里鳥帽子
 宮苔れひさま城着るり滄海嶺岳の
 脚多々天工自持の大機関をま本編地の裾
 乃宮ま鏡まらうとえき繪行御兵

亦あまぐ此地は藩多り機細の之巡り金
 金環を浴せや熱い女入湯の外かなは古
 さもあはれ白駒の隠坂空々せんも張三本四
 よひらけまな羈肉ののやま磯城儒一を視
 所別を記し京水が盃圖を加るの紙
 けり熱海温泉圖彙と題せり旅中の筆
 の公忙しけまを少漏し見り引か
 けり書も多るるし例の拙き筆のたまびあ

藤井やぶらの草子 ちんぎんていふ人
許しあへ

文政庚寅七月廿日於

熱海海之客舎

京山人百樹 識



天保三年辰秋上梓巻取

熱海温泉圖彙

京山人百樹 編

○行程 日本橋よりあまみまのろまで取巻取也

▲日本橋 西川へ ▲西川 川さき ▲川さき 二りま ▲二りま 津な川 ▲津な川 二り九丁 ▲二り九丁 程が谷 戸が

二り廿丁 ▲二り廿丁 平塚 北七丁 ▲北七丁 大塚 四丁 ▲四丁 小田原 七丁 ▲七丁 小田原

左の方 既小路といふ所 海手に入る 小田原 あり あり あり あり あり あり あり あり あり あり あり あり

往來の山路 二筋を志す 区と区 石坂切は 岐路あり あり あり あり あり あり あり あり あり あり あり あり

及まへ あり

かみ 足取 進め あり

むべし 熱海道 小酒食 あり

●石橋のふりて 治承四年 八月 杉野大場 の景親 となみら 古戦場 二 佐々木 田

の与市美石らふ小従者豊三が我死の地とて道の石より小墓あり

▲米嚙村▲根府川●御厨形あり●禁命箱根小同ノ御手形所ノ

家主の判百姓六村役の判ニ浪人・町医師・刺髪の人・小人と云ふは者何

人但内何人浪人とも医師とも小人とも云々より根府川石坂切に

入るりたる石屋のかさもふ多し▲江の浦あまの左石山つき左ノ海岸

光まで眺望よし●殊小江の浦ハ総景ニ▲赤澤村●赤沢山あり東鏡

曾我物語ノ入るり赤沢山ハ石あり云々▲河堀村▲吉濱村三リハ人

俣豆石坂切に小東より程なき中食の立場ニ▲川河▲鳴沢

▲俣豆山十八丁●俣豆槿現の社の傍に在万葉集と云ふ古書多き名取ニ

○熱海形勝 伊豆国加茂郡葛見庄 江戸北八里

夫熱海と稱するは上古此地の海濱ハ温泉ありて沸湯浪城燒也云々

海と名稱三面ハ山成りとして南の方陰海は對し東部ハ通る船

次津城過るは熱海内浦の村ニあり和田村叢村と云

岸山ありて道幅の狭き名舎の主ありての成りたる一冊と云ふ

○熱海三路 ▲北の方小田原の道より南の方多しと云

▲西南三崎小越ノ道五里▲野井沢▲野原の沢▲平井北谷(西)岐とあり

▲大土肥▲八溝▲大場▲三嶋▲南方網代浦小至二里▲和界村▲上多賀

▲下多賀 小名 中山 ▲小山 ▲和界 ▲網代

○伊東崎の洞

和田胤長頼家の命よりして伊東が崎の洞ハ多し東鏡ハ云々

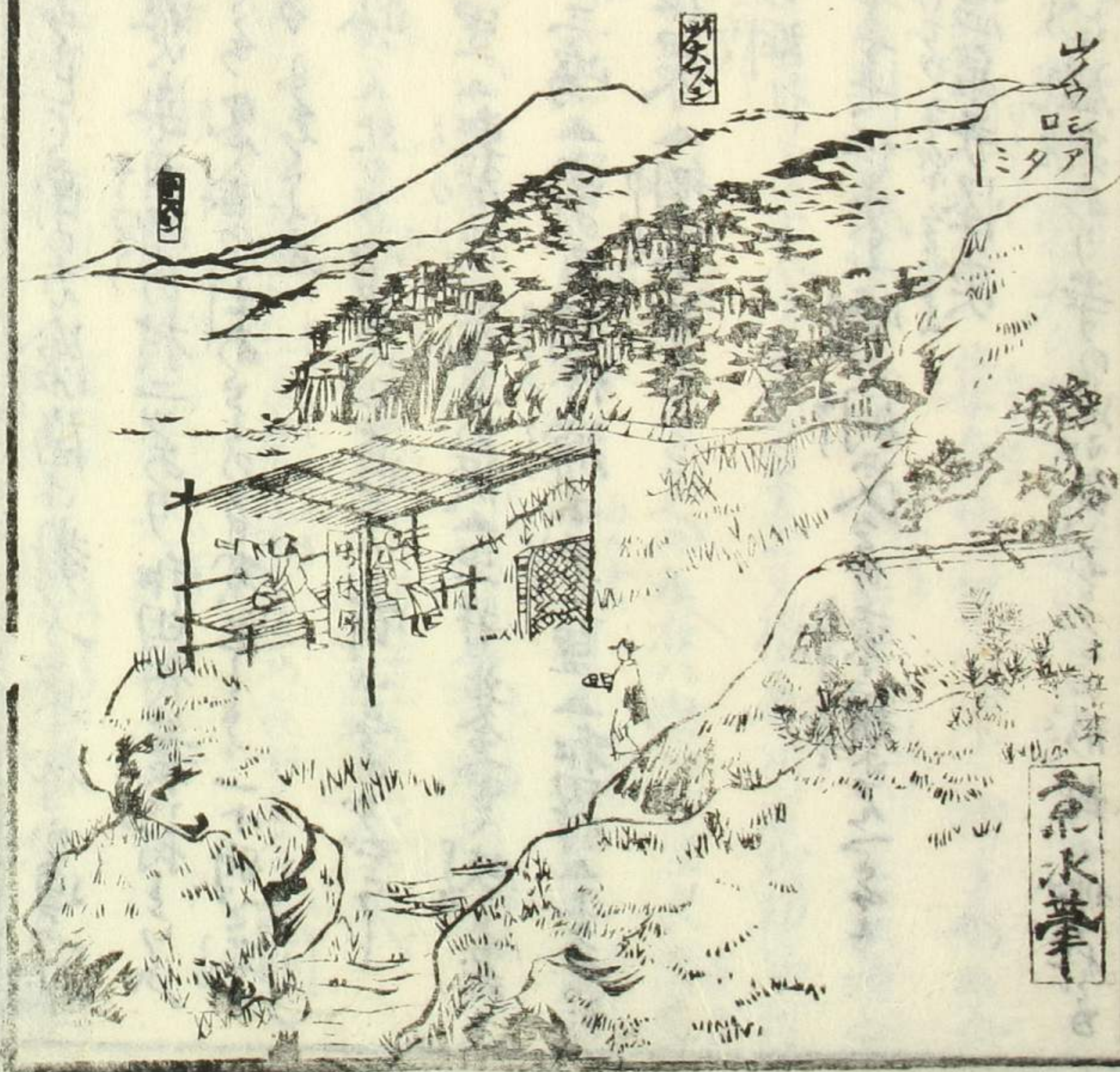
○伊東崎の温泉及怪異

村の中ハ寺ありてその創り温泉あり寺の池ハ魚ありその形鯉ハ他と異なる

江之浦之圖

日上紅波
浮裏嶽
磨來白
浪捲去
沙

四圍



去年菊は露

あゝあゝあゝあゝ

口きく不老の葉

と秋くきく

秋園真之意

雜病もたらしめ

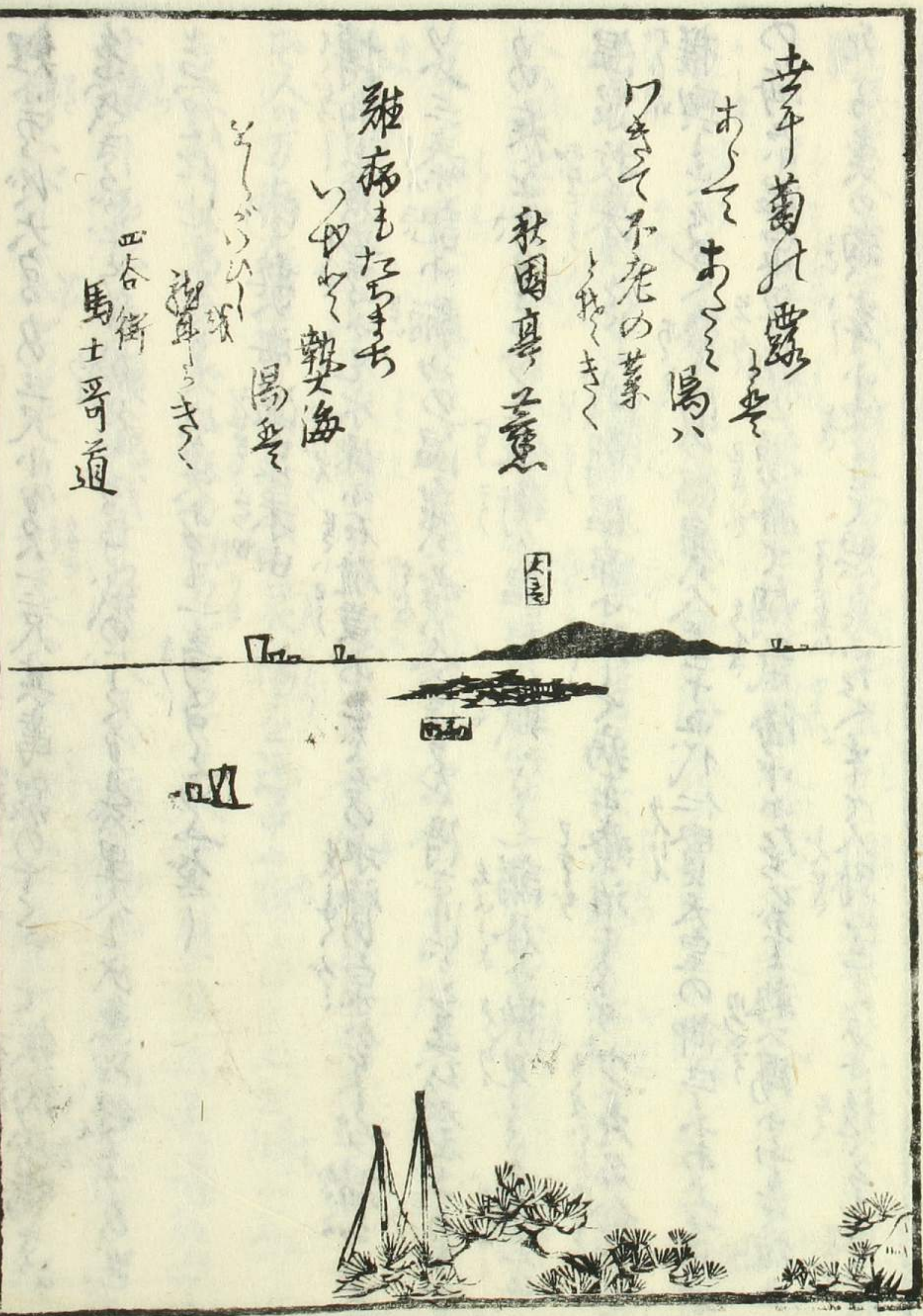
いかにや 難女海

陽春

あゝあゝあゝあゝ

四谷街

馬士哥道



五

六

鯉小あつた大なるもの三尺小なる二尺其苗銀のさくして鉄釣成嚙き
糸成さるがごとく細くさるる紙のごとくさるるが里人とは魚成得るもの
と云ふ此池ふかきりては魚あつても一奇なりと云ふ

○熱海温泉来由

博物志載案云凡水脈石硫黄あまきその水脈の白氣かきつぐ温ありと
よ三秦記の駒山の温泉大治人々多を得しげさるる及至そのちる
の疾を去るとして皇張衡が温泉の賦いさるる諸君散見しるる唐土の
温泉救急今とて我朝温泉小治と病を療治する少老名命成を
權輿と云ふとて熱海の温泉八王三十五代仁賢天皇の御宇小あつて此所
の海上温泉忽と湧沸て烟氣海中なるの至熱火湯ふあつて烟と
死ら魚の類岸小吹とせて悪臭ふたぐと人跡ふたぐたぐと星霜

を歴て人王三十九代天智天皇の天平宝字の頃箱根山の真徳の沙門あり
東方廣徑を課する万巻ふらるる故小人呼で万巻上人のを常湯
鹿嶋明那系詣の処に熱海の海上成るに清のちを煙り
上昇り火焰成て諸の魚隻死する大集熱火の池獄小なるを上
人のを足て樹のひさるる停きて煙城よる念仏を唱ふひ小づく
よる白雲の得るりて上人は對ひ見のさるるは海中に温泉ありて
熱火湯を吹いて魚類を焦殺する吾常小なるをわむるもの
て人の万病を治す不思議の灵湯を海中に在るに玉と淵小なる
おくひとくちふとを仏法の功力をりて上人は靈湯成山里
小移し玉の魚類死成るれ人民の病を助るその功徳幾万葉
小傳ふべいと云ふとてその形を成るる上人おとくは凡人小あつた

兼作ぬ来のつげきんと兼備戒沐浴し海岸の洞へ入る以食と祈
 る三日湯乾の板後の山く鳴動し海上の波濤さきまきさる音百千
 の雷のそくききくして海中山上おどろくをいれたを上人岩窟をいぞあ
 たりとえりふ後らる山の麓小雲のごくたちのおりあり上人怪しむて示
 小とりてえ玉ふ山崩れて石の間に熱湯湧き出ありさる神託
 長びきそ水を吐かごうとさき我が念力の満ちて海中の温泉こそ後り
 なんと上人は所すとまうて兼作ぬ来を祈念し此温泉は功徳ありそ万
 民の病苦救助けのいなる一七日中て立ちあひぬ今いそてあさる里
 の大湯と鳴るは是なり天平宝字より今文政十三年ふいそそ凡千百余
 年の昔より百も湯の湧の絶るるなきは実小神変不可思義の温泉
 には現里人の碑に傳ふ百樹別小考あれど
 志をくく思説す

○温泉主治

熱海の温泉は関東第一の名湯なりと半が遊み地との別てそ功徳詳
 小せり人多けれ其功効致す小記を中風そ手足を歩行ふ小
 ませむ小妙に眼病かまそ月たれ月の敷い七日入湯そ月城を治す
 る小妙に腰の痛脚氣筋痛手小折傷諸の虫寸白痔
 ▲脱肛▲淋病▲喘息▲婦人腰の冷▲懐妊する人▲氣虛▲血損▲齒
 の痛は湯とそ小妙に腫物▲金瘡は湯とそ小妙に毒を治す
 妙に左られも医療致すそ小妙にけし水腫服満痲病ハ
 此湯は第一湯小の間房事致すそ小妙にけし水腫服満痲病ハ

同小云文政十三年七月上旬百樹を地小にそ海部氏の客舎小を
 温泉は浴しそとり主の婦人の持湯は今春春の持主を江

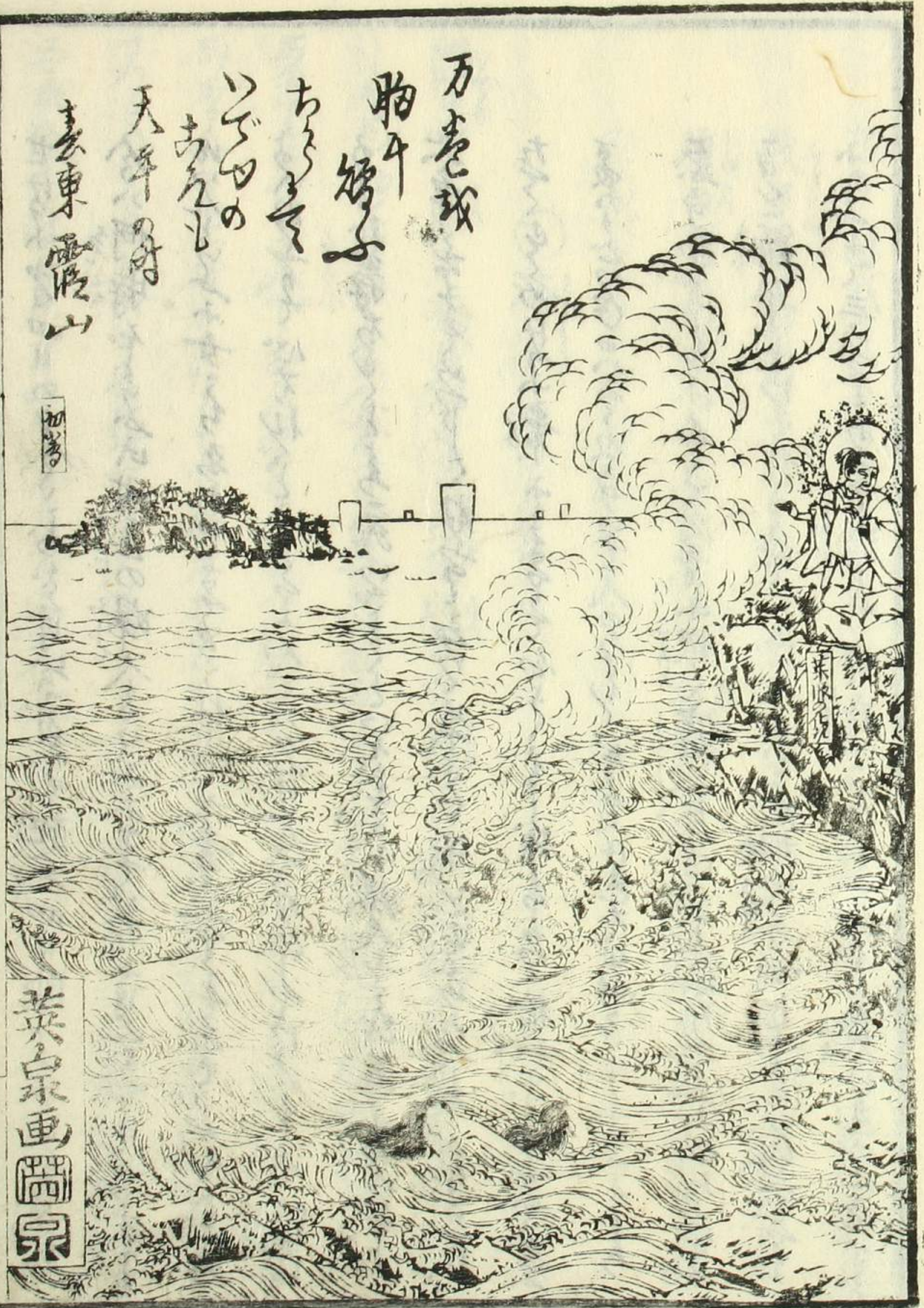
片山とて家ありて時不甲州の人と西郡の一人の老人娘を中幸の
女三人下女人従者二人坂具して宿せしが毎のよまう我ハ神気の病
ありしもの娘不寐の病にあまの病志は湯ふ妙たをとゆてさるく
るふ来りしこあまの氏婦ホツの奇病ありりは湯を治さるる只あ
かど保養さるるこつとさるるなり多奇病とせり六幸必あり昼夜眠
るあまの神心かたてさるるごとく枯瘦食をまをして園所をこの
人小對するも我思の時とて心勝りて人多増森せりて發狂者如
かる病もは湯の利チあと同婦人答てふ今少ふゆる病と瘵と
は温泉は浴一日して全快あり久く許多あれは六幸の同眠りあり
かる病治りしもの同もがかたもさるる女の才を医瘵のよま
むりも曉しゆ子と眠りあまの氣血そのひのさるるんはさるる

氣血を補ひ拙心致さるるふ才の功とせればさるる湯あり
その功効不應のりさるるあまの才とたりさるるあまの湯あり
符のりもそ是よりまかの女六幸の湯をさるる十余日たりしあ
輕食致喰さる時碗取とて二三にそ頻に眠り持る碗を
おしりさるるあまの才でゆがけぬがゆるといふ符かさるるあまの
よりあまの符取金を即せけりふを日も暮て夜も中ぐさるる
輕も月夜さるるあまの才て昼夜三日の同息ある死人のぞるるれが
よまふあまの才て覺束なくあまの才の婦人致ま符さるるあまの
はさるる三日のあまの食せがれが病ありん起さるるあまの
小川湯人のよ六幸の同眠りありさるる一日以二年して六日
のやもさるるあまの才てそのまふ甘く眠せぬ人を其の身もさるる眠

万巻成
 物千
 ちんき
 いざの
 ちんき
 天年
 表東霞山

初巻

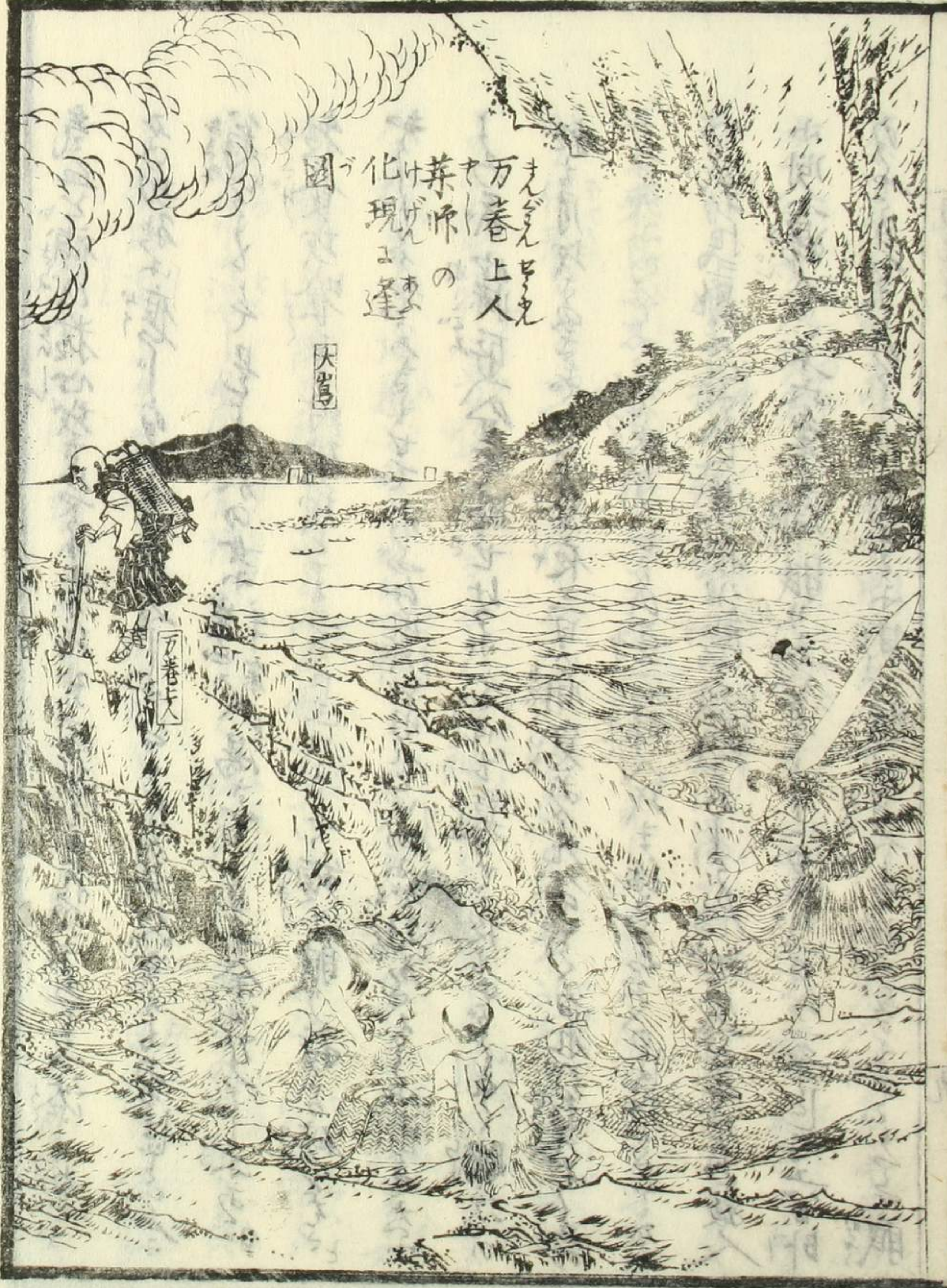
英泉画



万巻上人
 茶作の
 けり
 化現
 國

大書

万巻上人



右七日成一まらるといふ下廻り老病の動くもあり湯の利は次の一まらと
老病を療治し又の一まらとて病を補ひ氣血をのみ支那を健也

○湯味

鹹氣おと苦く味を付へ人の鹹氣とをさるるといふは里人の湯は
多岐ひくして木綿を織ふも木綿甚づつは湯を縮むるも暈のつみ
ありと少しやま京山返夏のとち春の湯は用ひ紫はやくさ成湯はひくして
ろろじふいさうもいろのかつたすなはち里言の虚なきは信を湯は玲瓏
たつた水見のごう大便つせが人一碗を喫らばよく通るといふ

○湯朝

湯の朝は昼夜の三交長の時小麥朝は六ツ時年中時成遠くは四月又
五月月小終月沸遊是成長沸とふ次の月かたふ湯はは是成休とふ

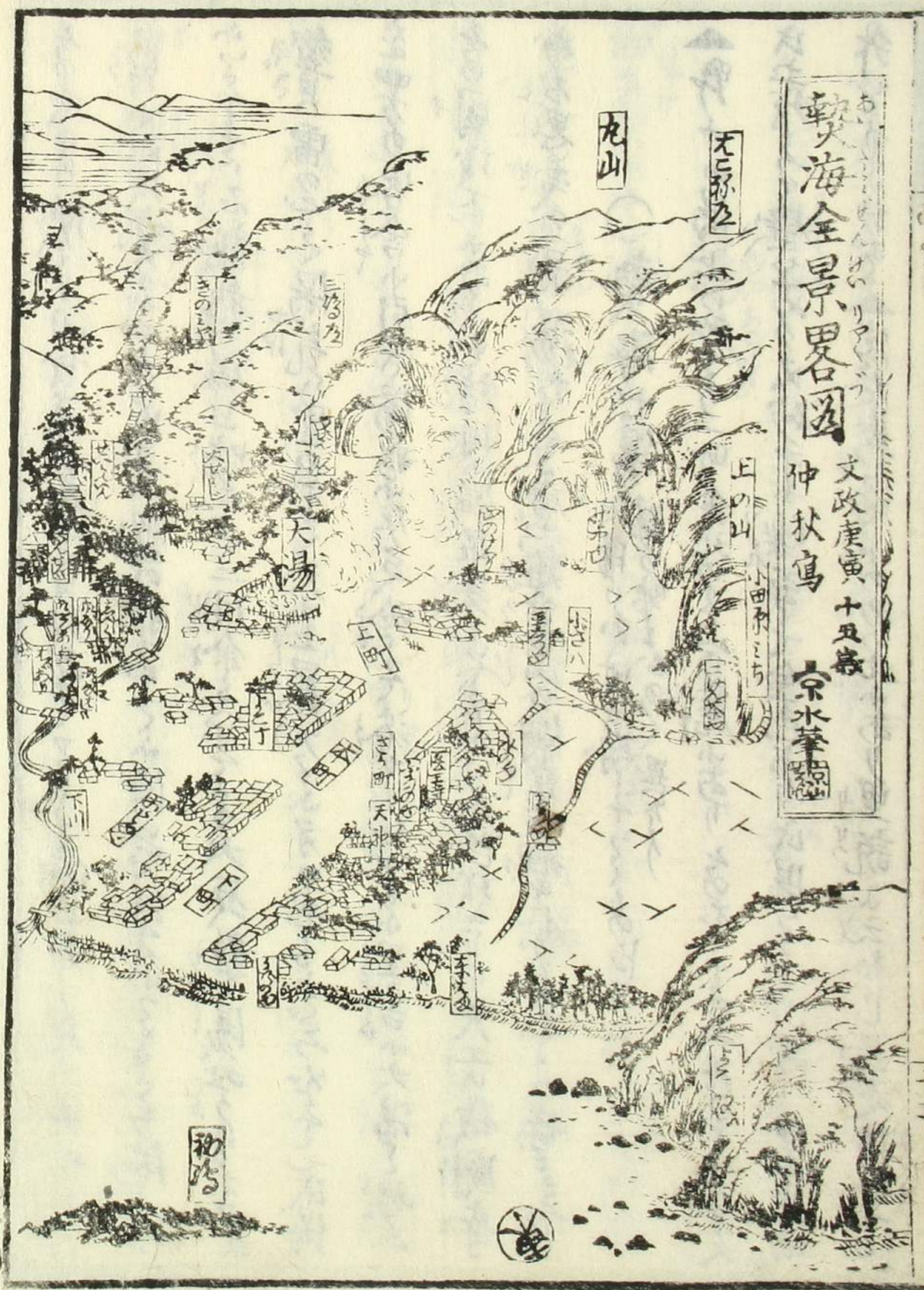
その次の月成る時成さるる二日成るて又その前の如く湯の沸形熱か
目閉ふ水成者方かごとくはさへ蟹の眼のごく小湯を流すも湯は
ふつとる石龍熱湯を吐く二則余もつとる大反熱湯吐くはあは
郷貴の雷のごく湯氣は雲のごく天の上昇するも牙の毛もよとらむを成湯
を四方の客舎小引き湯形たふ冷して浴せしむるも里言小大湯と唱ふ
その國城下小ありて諸國の温泉多とるもかたは成湯も天工の機刺奇
妙不思義の灵湯たりて唐土雜草山の朝泉は類をれむをれく奇をもべし

○熱海七湯

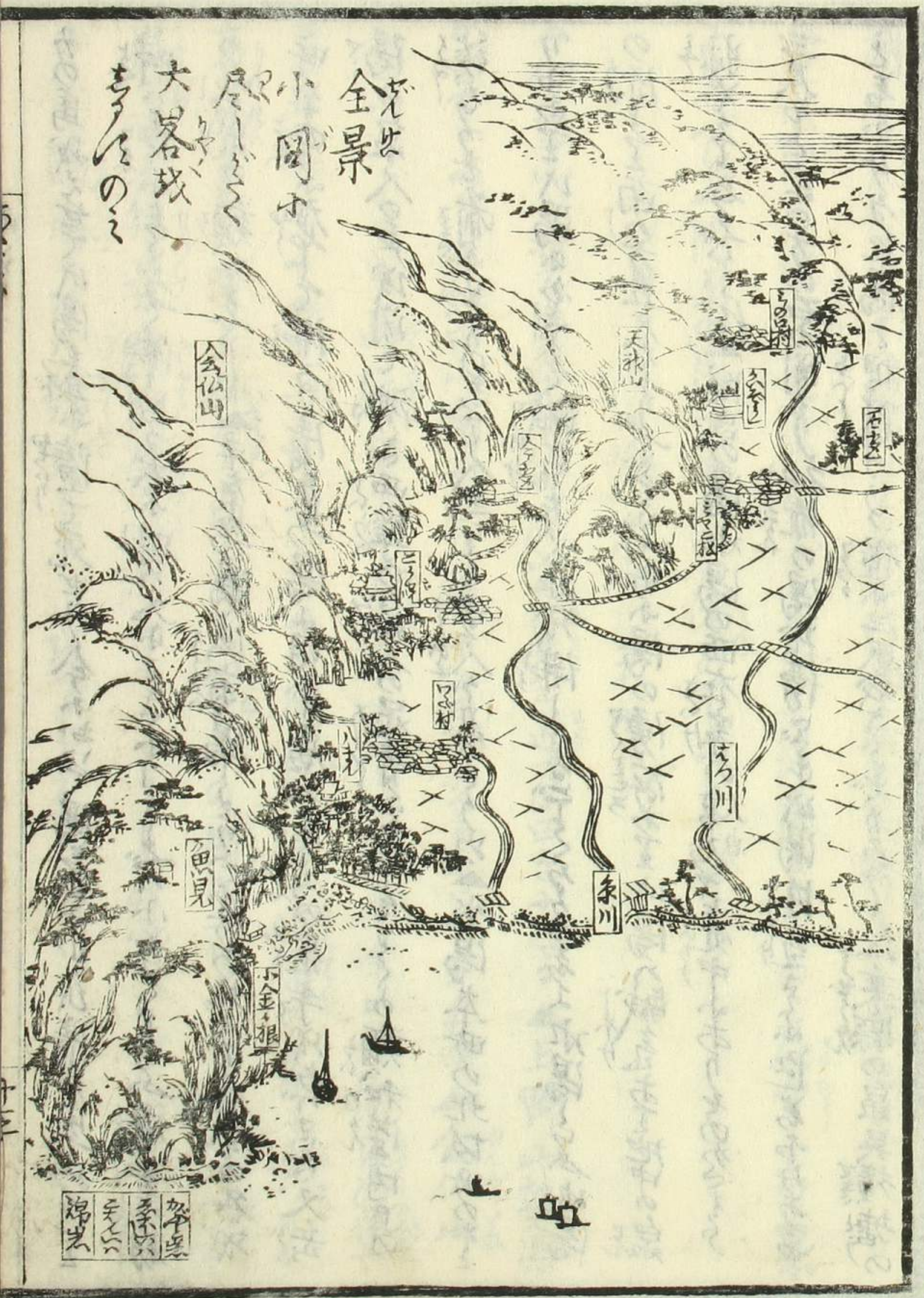
大湯のかけ成期はよくある

▲野中の湯上の西より二町余北のくさの麓小ありそのむての土丹のごく里入
は土成りて壁をぬる又砂中礫ありて金色ありは湯はうらうら後一か多湯
外とりのけぞは左邊湯下の西の北ふあり里説よ云むし馬走は左のと

文政庚寅十月
 仲秋寫
 宗水筆
 製海全景畧圖



全景
 小岡
 大岩城
 幸の



カ馬成をせては湯毒不墮て死せり今おきて湯毒不むひ清たぬめじと
叫こゑはあふまきぐて沸わかる大お叫こゑは大小きふくよぶ小おこといふ唐壽劾
の吐と泉すゐの類るいたる一平左邊湯法南湯より上町の北あり人多名成
呼よぶあふまきぐて沸わかる清たぬ湯は白下唐土茅山の泉手成たき又岳
陽の泉人の声成以て沸わかき西寧の泉人の足音不夜とてその類和陸四日の
淡たんありと前まへよりものまて人いりやと里人かあがりぬ水湯本町の北坂町のを
りおまは湯おまきぐて鹹しん気けなく水成沸わかるぐくろるおまは水湯とふ水湯
の源かたより南の方五尺をりへぐくろる所お湯の湧所おまは湯の鹹しん気けおまは地中の泉
脈みやくたるまきぐて風呂の湯水湯の西在家の焙あや庭中おありそのおまは
三尺やど本の方の石の間より細流の湯成湧わるお湯成湧わるお湯成湧わるお湯成湧わる
とまきぐて湯と相隣あひなりる僅わずか三尺成さるまきぐて江乘縣の泉具積塘の

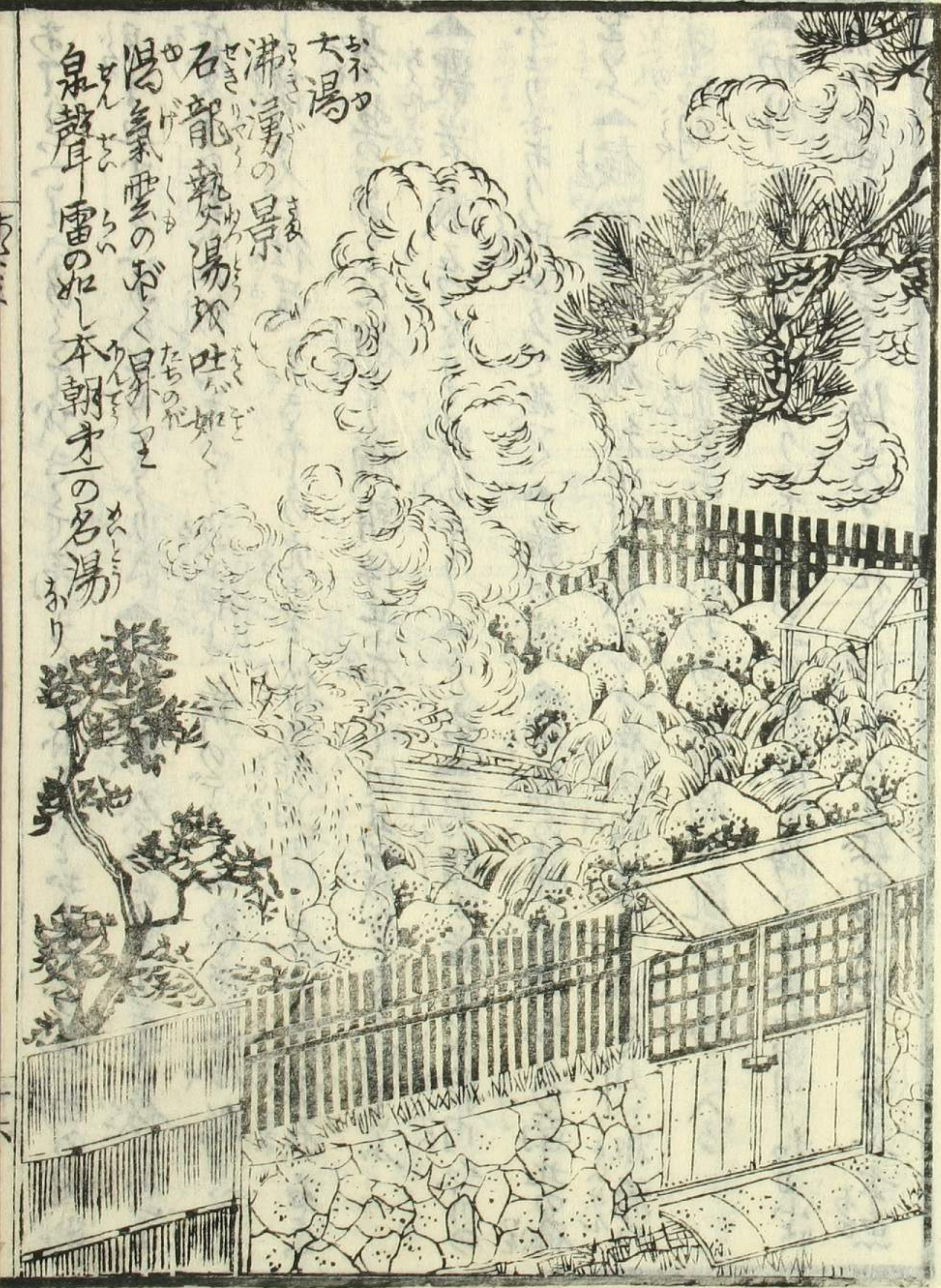
湖水こゝろ半はん冷れいみ半はん熱ねつといふお湯は比まねが奇とまきぐたぐや
左次郎の湯あ王寺の川かわありおまは左次郎とまの店たな中ちゆうありおま
お名ぐて河原の湯下町の東濱あの布ぬをあま

○山川鳴窟石井

▲伊豆山 熱海の北十八町の山ふかの麓ふもとを過まて小田原より▲上野山 熱海
の東ひがしあり▲和田山 南みなみあり麓ふもとに和田村ありおまは五町▲念仏山
和田山より高山たかねなり▲日金山 西一里余の山より再また登のぼる
こと五六町あり▲九山 一名▲十國 嶺たかねより近隣きんりんの安やすみあり
高たか嶺たかねより四方しやうありおまは五町の國城くに一月おまは十五
嶺たかねより總すべ景けい奇き觀くわん筆ふで帛ひらありおまは山くまて山躰やま躰た
多おほし蒲州ふしうの山錦城にしんありおまは山城やまありおまは

▲初出のあまもり海上三里東南あり方一里ありの小嶋
 なりあまもり 那ハ野々浮らかそく古の沖の小嶋と流ら
 ハまたりとらハ仲の小トま城流ら 於於の前後後撰和歌
 集よりとり ▲大嶋あまもり南海上十八里嶋の中ハ三ツの島
 山ありて大牟山と 嶺とふら 後洲山とて 大島の里人のあま
 ハ島の人相時世に異る多し 女ハ肩或るが 齒城際ど 髪或る
 かくたれ髪小して 髪まをむきか 体巻城まを 禮美とを体まき
 貴族のたかあり 絹と木綿とみて 近年昌平の女風孤嶋も
 うそて 時世の粧ハあま 島もあれを大嶋の女も時世の粧とまきん
 欲まれども 島の風俗とて 賢才の女城撰て 女衆の対とて 是て
 女風成風とて 此れを 俚言ハ女頭とて 是もあま村中の女もかの時世

の嶋田の髪小あんとまらうの女頭ふあまの城をひける女風の田とて
 あまあまの髪小あんとまらうの女頭ふあまの城をひける女風の田とて
 かり一家のまらわ嶋の中の破れを 評し かくて今ふたれ髪なりを
 遠き嶋山とて 賢婦あるハあまを 御代のまらわを 他郷に
 髪を巻城まを 女の風俗の古風をまらわの古き 絵巻城まを 他郷に
 交接する 洋島とて 古風のまらわを 保存し ちりちり
 ▲鷓鴣石 熱大海の西山城越て 二半丹那村の山間ありハ せあまの某
 春の片一家城まを ちりちり石のまらわの平地ハ 種まを ちりちり酒を
 ちりちり用意まを ちりちり節とて 歌舞城のちりちり 城似るあま
 其技あまを ちりちり石の郷音とて ちりちり声とて ちりちり一毛と
 ちりちり石の丈ハ六尺あり 幅ハ四尺あり 石面ハちりちり孔とて



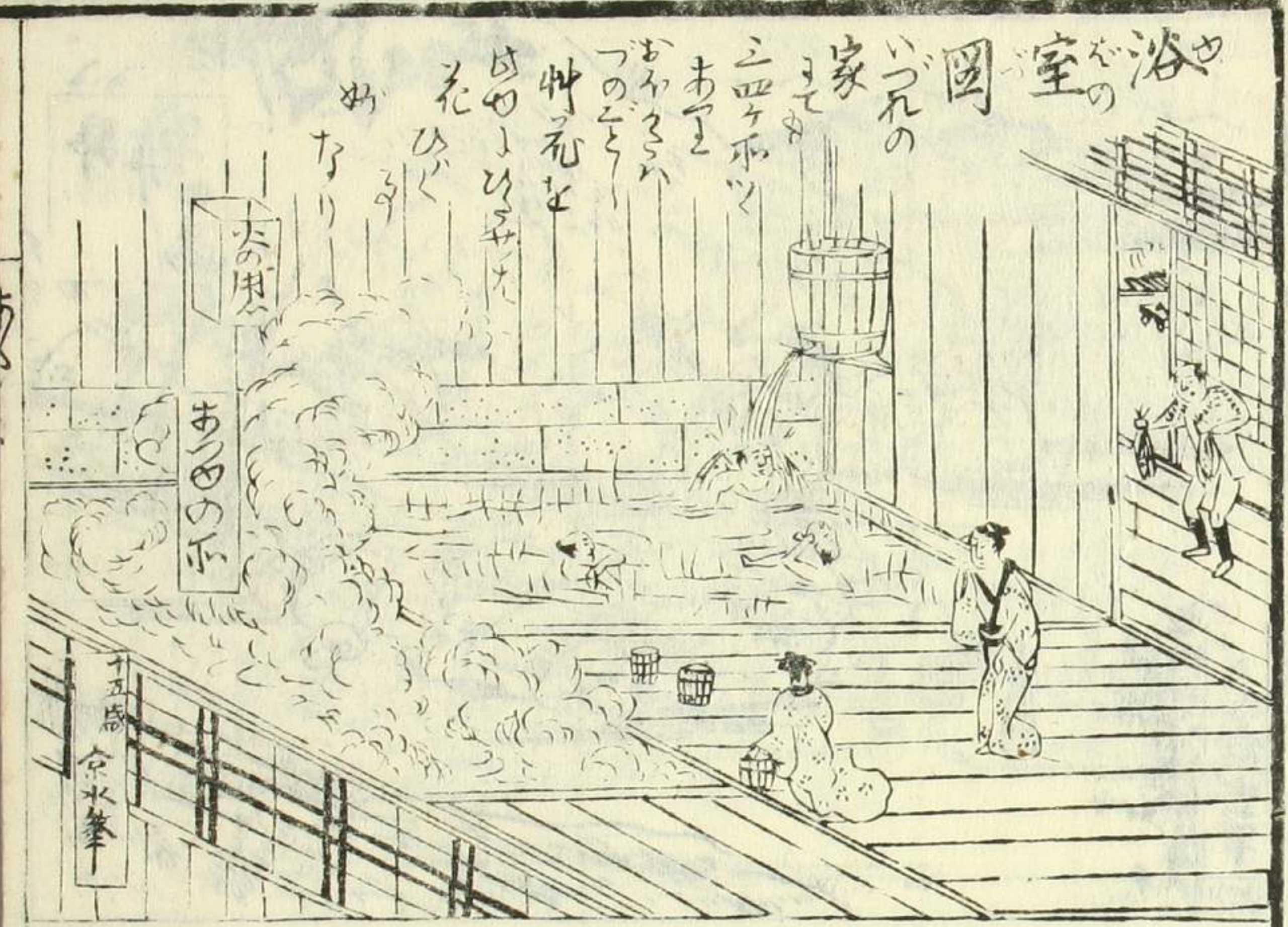
おんかの
 大湯の景
 石龍熱湯の吐
 湯氣雲のおく
 泉聲雷の如し本朝才の名湯あり



熱海温泉
 湯源の沸湯之図

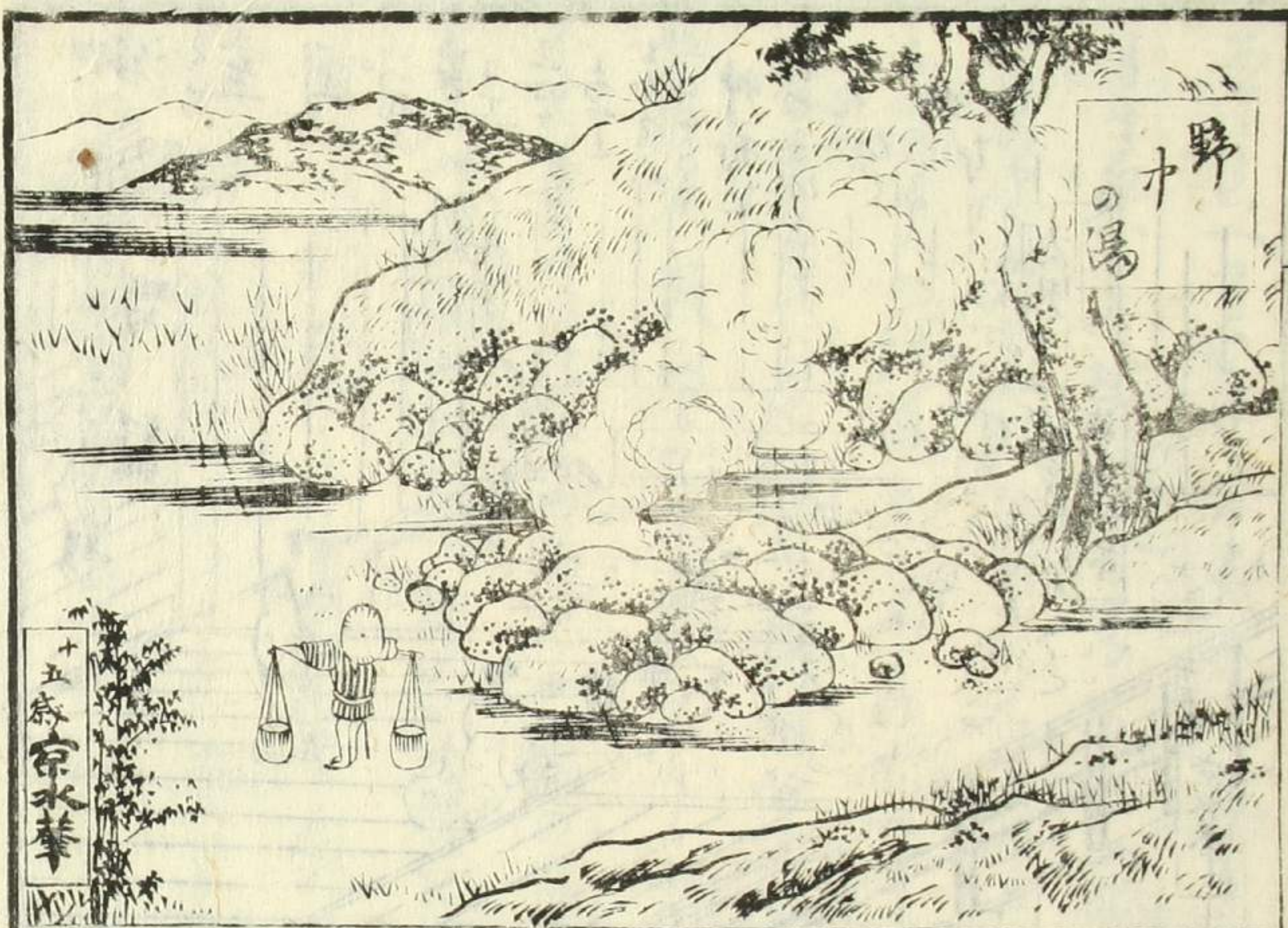
十五歳京水筆

あまふりしつひのくさくさ成りて予もたづねむとありしが逗番の陣職
 助まれふしてあひかともさきりき ▲錦の窟 念仏山のふもと赤の礫ふありと
 窟の中の岩ふ五彩のいろあり波の映と錦のくさく ▲観音の窟 錦のくさく
 と隣り人の往還まきまきの穴あり俗に胎内窟とふ ▲其磐石 石よ
 夏公盤の目のくさく皴あり頼朝侍景在りし所其磐石をくさく一所とふ
 ▲霰岩 数石つたりて霰のくさく ▲兜岩 ▲烏帽子岩 共胎内くさりの
 不とりふあり形とらて名づく ▲錦の浦 ▲那須の浦 胎内くさりの南北の礫
 をよ ▲横礫 ▲和田礫 和田村の礫をよ石決明多し ▲糸川 水源
 来宮明神の山より流るる新野新宿成流して海へ入る
 ▲初川 笠原村山簡よりいで丸山のふもと成流して海へ入る ▲和田川 和田山
 流れ和田村とせりて海へ入るれと細流くはば橋成架して女子幸魚



多し ▲業平井 あまふりしつひのくさくあり
 石の井筒ありあまふりしつひのくさくあり
 よりて名づく ▲三點井 温泉寺の
 川あり三點の故よりて雲居禪
 師の名づく所ありあまふりしつひの名水
 ありあまふりしつひのくさくあり
 此井成用ひのくさく ▲雲居禪師の傳
 温泉寺の下に記せ
 ▲多賀一杯水 念仏山成越て細代村の
 小泉あり冷るる水のごとく清徹なる
 る水泉のおり傳せりしとむし東朝

野
中
の湯



十五
歳
京
水
華

此地或過し時湯水のそま太刀波りて
山城より多しと云ふ泉城湯にせり
と云ふ小泉のそまといふ所の炎赫と
軋るる名水之

○神社

▲湯前権現 上野より一町余西に在
祀所少彦名命鳥居の傍小碑
あり明和七年社合建形之文ハ信
陽源通魏書ハ東江平原鱗の
千百余字の湯泉の起立とあるとて
天平勝安元年己丑正月少彦名
天手勝安元年己丑正月少彦名

神憑童曰と云文あり又慶長中

□祖のあふ浴りかひりり寛永十奉

猷廟亦將浴りか見と命て行殿

戎構の遺跡及調馬場尚存の文

あり石燈籠西基宝曆八年夏久留

米の太守と云浴りかひり時の御寄附

たより彫りあり石鳥居安永九年の秋

大守再浴りかひり時の御寄附を云

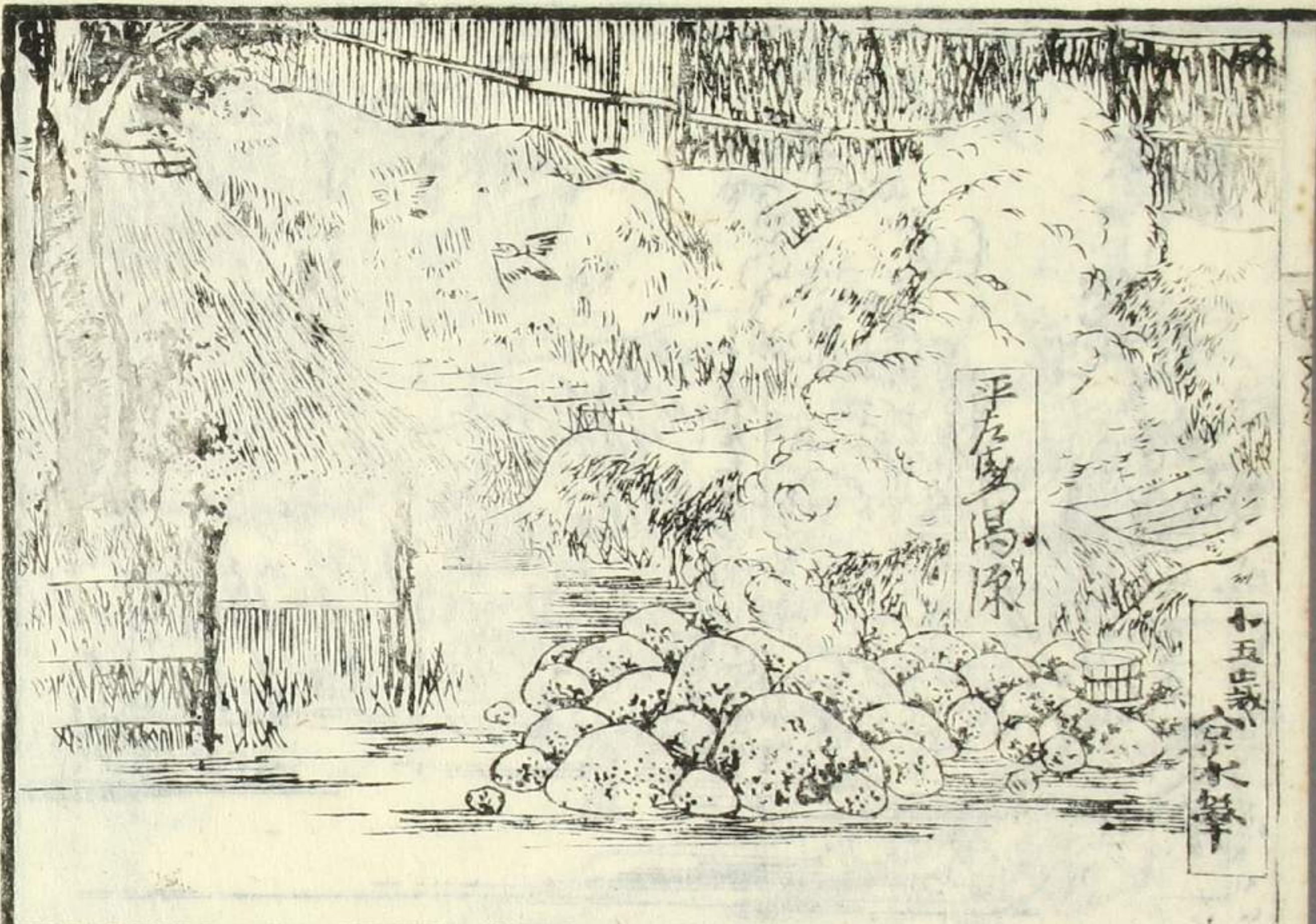
毎年九月十日祭礼ありその神霊ある

ことハ里人の口碑に云りてふもせり

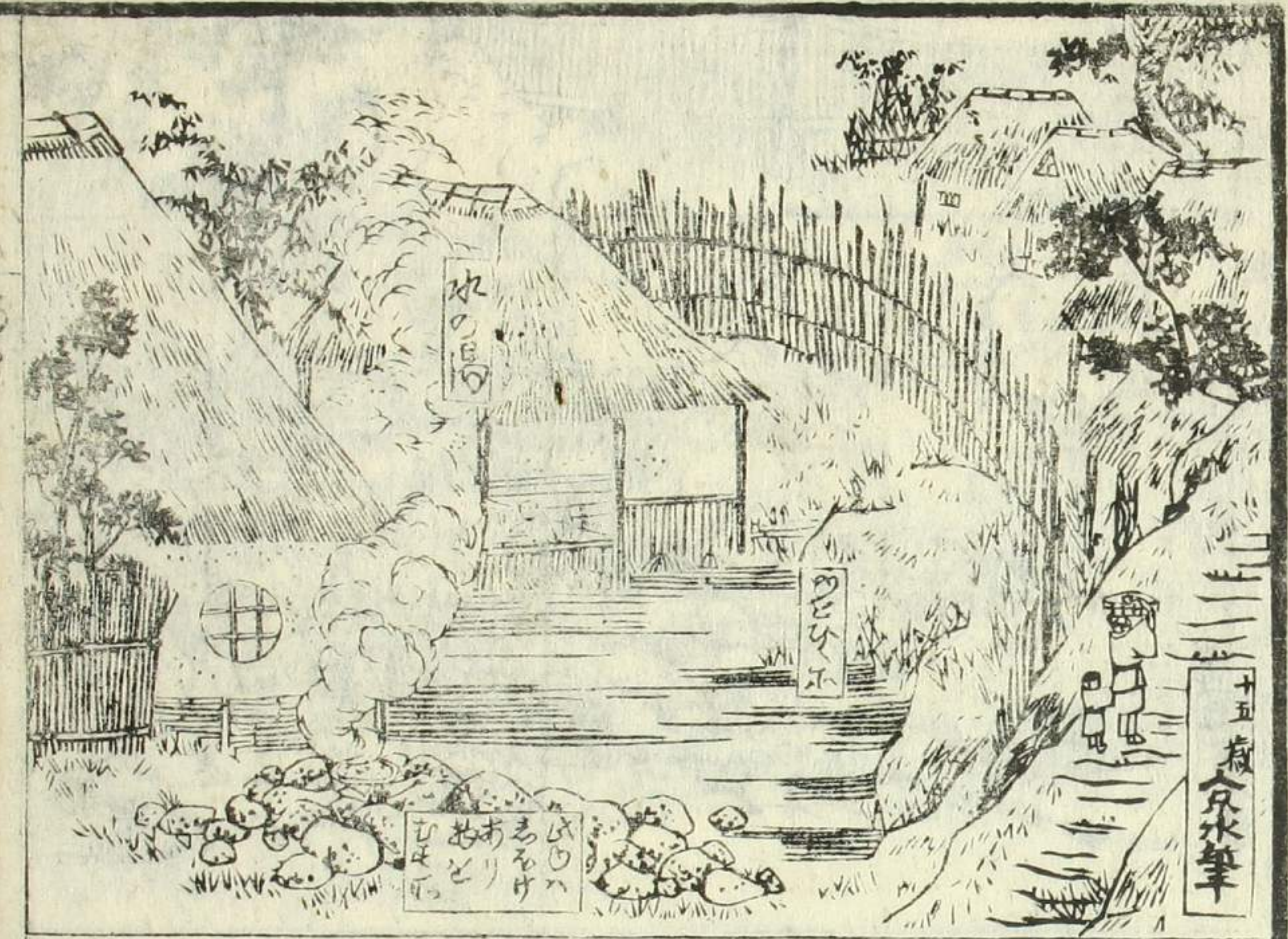
▲今宮明神 和田村小あり和野所と



十五
歳
京
水
華



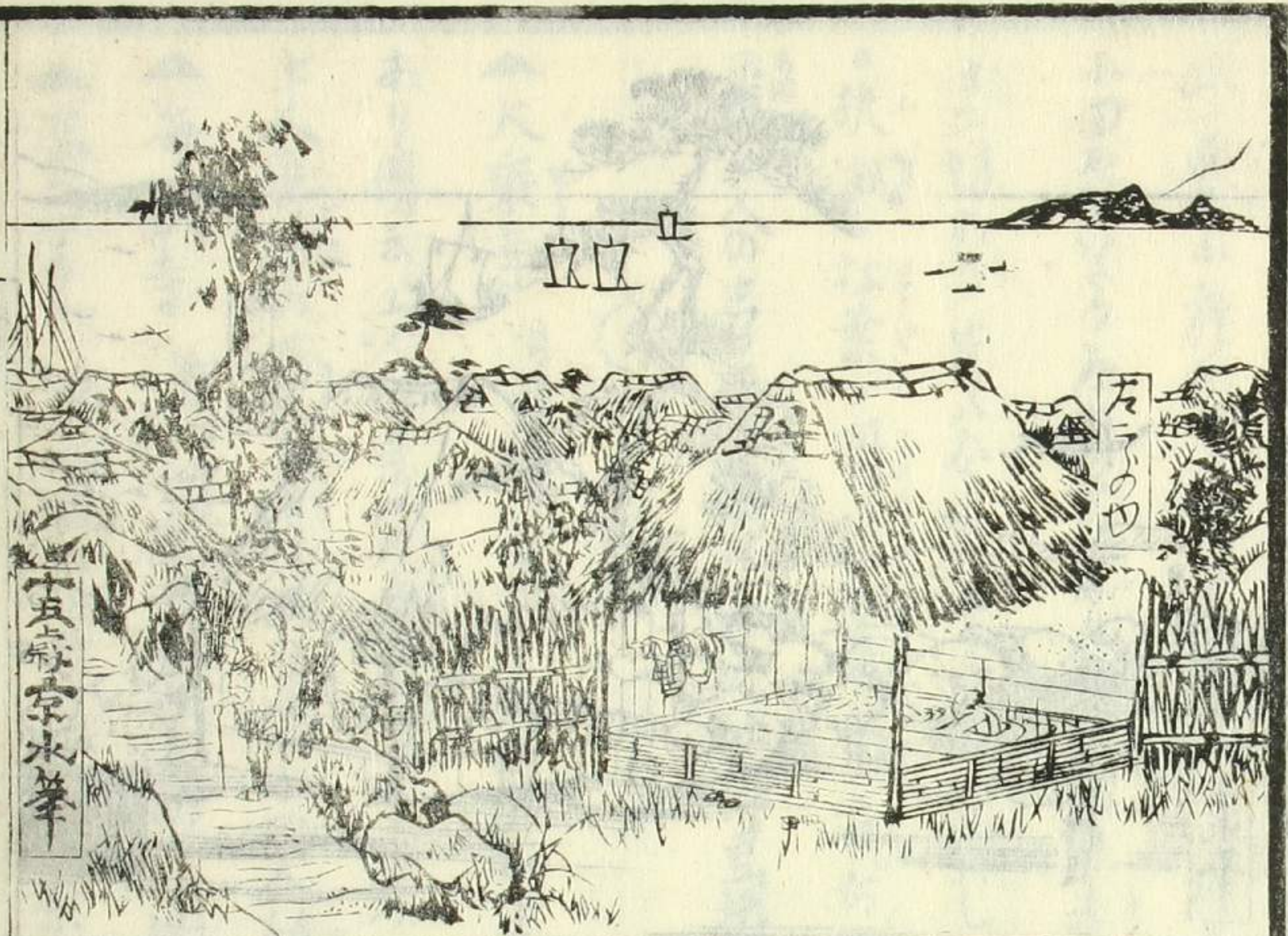
宇乃のせり ▲天神の社本所より西の方
 四畝余ありやして海辺の社ありしは
 一を逆浪ありて社成流したる尊体
 木作らるるも破ふとまりてあられさし累
 社成今の世に教へてをもち東都の
 人は地中逗留のち是非を信じて感
 應を得るるありて財をばして社を
 補ひける小宗成歴て神祇の博士を
 小宗のやまありてその体成拜して大の勢
 我々のむじ菅公築紫の謫居はく
 たる時あつる真像七軀を彫刻ありて



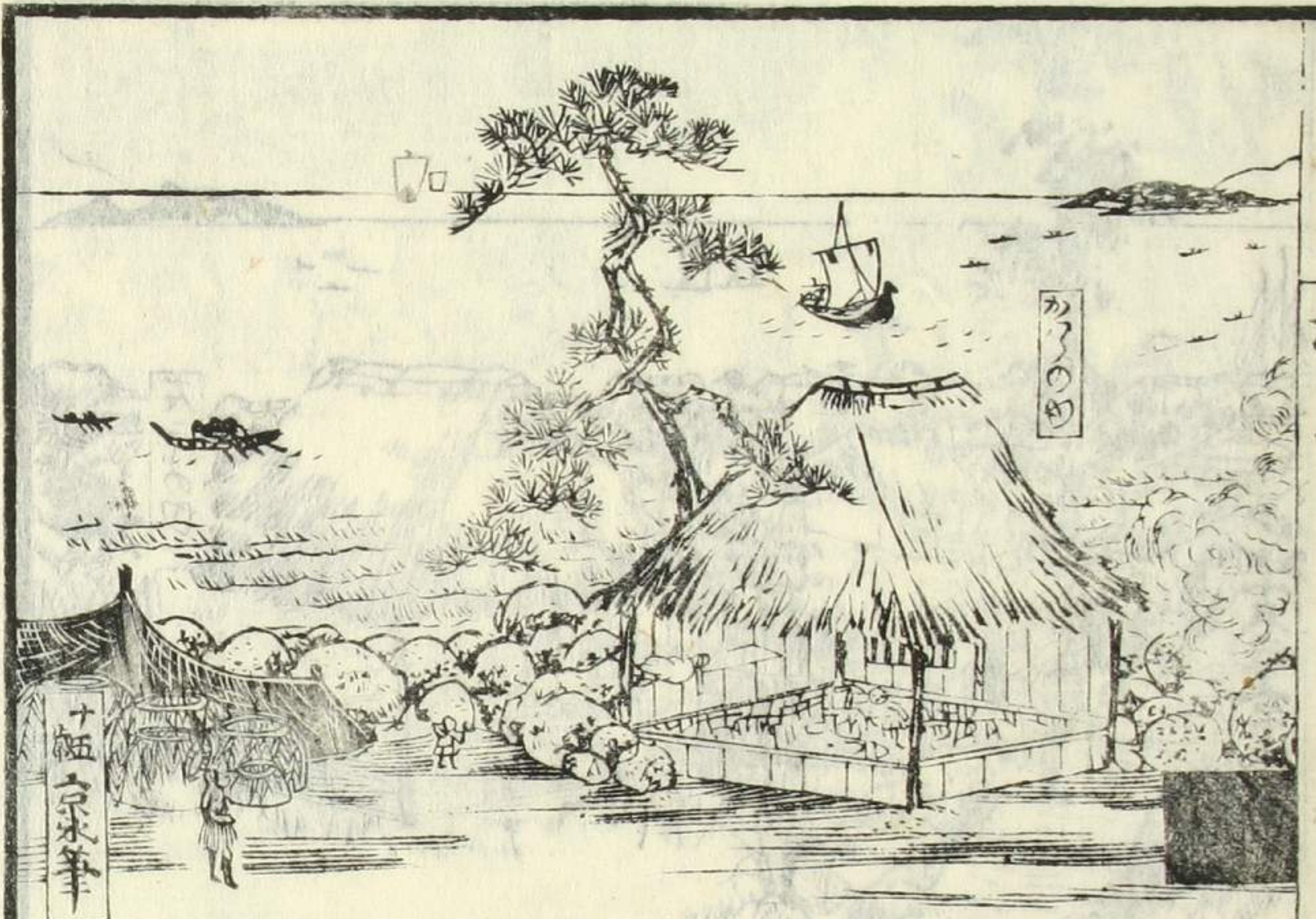
海小流より六軀ハ流し傳ふる所
 ありてそ真像と祀る所の宮今も
 在り其二軀はこれの地小流流世
 やささるるまじしは昔像を七軀の
 一にして菅公の神作なれと扱たりけ
 ぬ社大の勢ある傳へる所もあつ
 たる何人の作とてあつたふまに
 菅公の神作とありしは社に比し海
 のもとよりあつたは海辺の社なれ
 ばまじしは破らるる所も祀り
 たりと見より里人と信とす



宮居の重修りるを
 ▲来宮大明神 湯方の社の西面を
 かりの上あり熱火海の鎮守なり
 傳は田和同三年六月十五日あるの里
 人細城にして尺をりる木像を得り
 魚小あしが海中小まをしふ三まを
 細小かりりたま天の陰の岩の上を棄
 死しよ和田村の農夫 今来宮の社宮
 青木氏の先祖云
 ちれ取拾ひるとそ家小持よりしそ家
 の童小社の獲てりふマラマに五
 猛の命と久し海中小ありが時とそ



出現せり此地の北の山小七株の楠あり
 て激の声聞るが形あり其地小
 我とまつと承く村民と法護
 温泉小浴まなりのため惠城とて
 霊湯の病小癒えりま成まりと
 神施よりて今の形小祀る自奉
 力小とよ心ま来宮と唱なる毎
 年六月十五日の夜あるの浦とそり
 ら魚成供十六日小神輿成廣
 の御旅取小移して祭あり
 今の神宮青木氏の持経よ木の宮の



祭祀の時神輿の上へ造りしは孔雀の
 櫛棟城舎よりありは稲穂ありて
 上町の北に住する百姓平なうが田のちふ
 て刈り稲の古根より一茎城上まで
 実り多し毎年祭祀の時となむと
 かれが果稲城せむせむいりるるやうと
 久いづるにふかの稲とせむる田の隣
 ふ石城つて田の原とせむ隣むきう
 石の間より稲城せむて神格とせしふ
 その月のまふ平なうが家不幸ありが
 次のそへ再び平なうが田にせむせむ

げ一粟^{キト}お移ても神^{カミ}の赫^{ツク}くは城^{シロ}をぶー^一 伊豆権現あまの北十八町
 小田更^{コタ}いりる石のむらふ鳥居あり 走湯山東明寺と云別当城般若院と
 十二坊あり皆^{ナニ}今も有りも唐^{カラ}大^{オホ}外^{ソト}し大社^{オホヤシロ}うるる東鏡^{アキカガミ}小^コ詳^{サツ}なり・拾^{シウ}遺^イ
 扶^ユ木^ク・松^{マツ}葉^ハ・哥^カ枕^{マクら}名^ナ寄^ヨホ古^コ前^{マエ}城^{シロ}のせむ回^{マヒ}跡^{アト}より神^{カミ}のあまのうら
 晋^{シム}く人のあまのこ^一 古^コ井^イの社^{ヤシロ}伊豆権現の西北あり古^コ前^{マエ}の回^{マヒ}跡^{アト}

○寺院

▲大乘寺 月蓮宗 あまのこ上町の西半町ありは寺小月蓮上人自作の本像
 あり傳云上人伊豆へ左遷の時甲斐の志^シ像^{ゾウゾウ}城^{シロ}刻^キとありは城^{シロ}寺^テに傳^ツ又
 上人真^{マコト}跡^{アト}の夏^{ナツ}多^タ程^{ほど}あり信^シ公^{キミ}の人^{ヒト}釋^{シヤク}賢^{ケン}城^{シロ}社^{ヤシロ}を許^{ゆる}して釋^{シヤク}さ^一む
 ▲海藏寺 妙心寺 上町の南三町 開山悟庵和尚中興^{チュウキョウ}潛^{セン}溪^{ケイ}和尚
 ▲温泉寺 妙心派 上町の西三町余 傳云文治五年頼朝の創^{ソウゾウ}構^{カウ}

本より觀世音ハ弘法大師の作脇之の地藏昆沙門ハ蓮變の作と云中興
 開山授翁和尚ハ南朝の賢才万手小路藤房卿ハ此地ハ適居ヤ祭門ニ
 入至授翁と号ト此寺ハ住ノハ興禪寺ト自畫の像あり寺の庭中ハ
 授翁自裁の松今ハあり授翁飯浴の後 教より妙心寺二世ト住
 ノハ寛永七年高徳の少ナキ雲居禪師ハ此地ハ錫杖トテ温泉興禪
 の兩寺以兼任ト是以近世の盛禪トシ禪師のハ不負易松嶋の瑞若寺
 小再住入寂ト大慈圓滿國師の謚攻リ不其傳の詳 萬曆元年文三幸の
 刊行雲居國師年譜ハあり 百村あり入豆飯のあぶ以書以温泉寺の現住ハ
 借用トシ一覽セリハ雲居國師ハ開山或ハ中興トモナリ
 百七十三寺ありテ城ありテの極のたきとあるハ表房々のカチあり
 象ハ表殊敷温泉寺ハ傳ハ一覽セリハ今も唐のあふ稀世の林也
 ▲誓依律院 上町の西縁起ト少クセリ ▲育王寺 縁起をばり
 ▲興禪寺 和田村ハあり中興開山万手小路中納言藤房ハ通授翁大和尚

寛永年中雲居秀光不昧禪師住職鐘の銘ハ前文 寛永十叁酉
 年小春良辰大檀那執伊西国太守藤大覺察朝臣高次公治
 三嶋居住齊藤右近尉正俊 前妙心雲居叟希膺誌トあり
 熱海の里人某の語ハ雲居國師此寺ハ住職也也東本願寺奥州松
 嶋の瑞若寺ハ住職在時心不敬セリトありテ瑞若寺城邊電ハ名致
 隱トテ行脚ハ此地ハ入湯ト興禪寺ハ寄食ハ賤ト勤ト居ルハ
 一日ハ前中草城トテ居リハ國師の弟子ト云レモ寺の住職ハ
 在保養のたけ地ハ入湯ト勝景城トテ興禪寺の門前を過リ
 国師城ハ大ハ立地地ト踏居テ国師の名城ト云テ未錫の
 所以ト云テ孫ハ小ハ時興禪寺の住持ト云テ石垣の上トありト是
 城見ハ行脚の僧ト云テハ雲居禪師ト云テハ文ハ云テハ直

本堂の壁の詩或題して佳職或雲居国原の譲り裏山より行か
まじきものしを以僧もまじきなり。後小温泉寺の藏本雲居国原年
譜或る小ばり成記を詳かり。▲湯河原地藏 温泉寺の心よりふ
あり▲和田地藏 和田村あり聖慶の作とふ▲土沢地藏 上西の西世丁
▲目金地藏 銅仏のあまの西のむらり五丁むらり天竺ありむらり
きたれどもまじきけれを畧す▲峠の地藏 縁起或るむらりまじき
畧す目金山の安年つきふあり以堂より西南の滄海或る景色後
妙熱海近嶺の勝地たり。此余あり近隣の旧跡少くしむるもまじ
なり。好事家の補訂或る

○産物 之れけあ

挽物 狸工 桐子入茶 膳碗のふ箱小鉢のふ茶器 夏月香合

のふぬまの細工 重箱まじりぞ吸めぬ盃のふ。右はれは旅
客逗留のち好む態に作りゆより出来品あり▲雁皮紙 今井
半太夫家製衣 栗山先生の創製を造りまじり依て雅品多し
▲木の葉形塩温石 あまの湯の美を自托まじり依て万病よし
▲大湯の格詰 温泉は三月をこひしたる格詰たるおぼてまじり大湯のま
たて成つる二格の代銀祓衣も記を交まじり日本格ふり▲魚類の乾物
私に通ひ自在るを暑中も江原より▲青木の箸 ▲あまの絵図

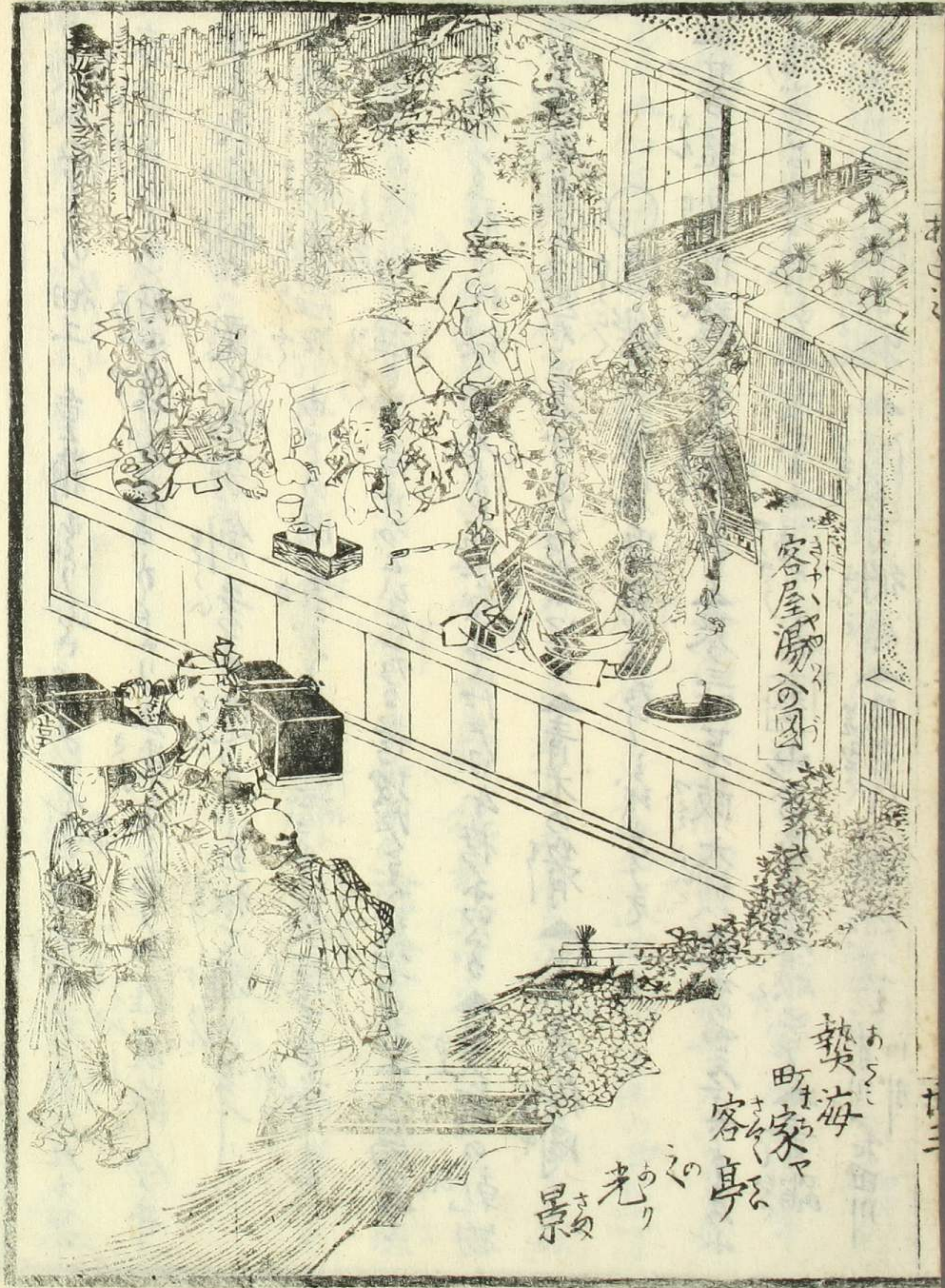
○遊樂

旅客逗留のちなり或る

▲碁盤 象棋盤 半小客あり▲琴 三味尺鼓 大鼓 ▲茶のむら具り
在りてこれ或備す▲備本 ▲揚弓を ▲春 山の花見 ▲殿より ▲青踏
▲以千鶴 夏 螢 螢 ▲濱の納涼 ▲破花が 秋 鮎のま 糸川 和田川



歌川國安画図



客屋湯の図

藝海
町家
客亭
景

▲紅葉狩 ▲麻酔 ▲虫江波 暖地多し多し早く冬を避くをり
 客屋の庭にも松虫を起し終夜をく ▲葺狩 松の松の山く多し
 稚子取 ▲小鳥狩 冬千鳥 雪見 猪打
 ▲魚漁 八ヶ地才一の遊樂なりかたり四季小かろ色 ▲鯛網 付と二
 小大小の鯛数百枚得り ▲地引網 ▲松魚釣 ▲長徳 ▲石決朋取
 ▲磯の目ひろい

○旅店

大湯城引て湯場城造り様客を置るを客屋と唱ふ客屋にあふれを
 客成さむ成禁や客屋二十七軒あり今休のみの畧也
 本陳 渡部彦左衛門 今井半太夫

富士屋 森右衛門	相摸屋 要右衛門
江戸屋 吉兵衛	山田屋 八郎右衛門
巴屋 次五郎	紙屋 新右衛門
鈴木屋 新吉	三浦屋 平助
遠房屋 平藏	小富士屋 金五郎
真砂屋 利右衛門	伊豆屋 徳兵衛
坂口屋 弥五郎	伊勢屋 五郎右衛門
武藏屋 左五郎	蓬萊屋 恒三郎
菊屋 孫右衛門	鱗屋 平五郎
小澤屋 與五郎	

通計 二十一軒

膳客テツカクやうり類ルビもめ其コノより食タビる塚ツツミ坊ボウハ一ヒツより七百チヒツの食
料シヨウを食タビる金カネ百ヒャク疋フツ湯ユ料リョウとて浪ナミ文モン之ノ或ナ是コノ自コノ分ガクをシ然カニ
とちがへ食料シヨウリョウよつづの糸イト帳チヤウ面メンもあつてとる家ウチありかたを
だる水ミヅ桶バケのえ座ザ麦アヒ毒ドクをシけありてるかたはけかけの水ミヅと引ヒ
自在シザイ残ノコるを疎ソコ小コ清水シメヅ之ノ世人シヤクジン或ナ召シ見ミせざる人トモ自分コノボクをシむせんと
せよは備ツク女メありて朝アサ来キりて夕ユフかゝる食タビる或ナ酒サケや馴ナて信シ實ジツ
小僧コソウやうりまゝの世ヨに衆シユをシける婦メ人ヲあつたがは備ツクせよ
夜ヨ具ツク雜ザ器キの類ルビの扱アツ料リョウも其コノよりかた遊ユ藝ゲイの具ツクもたつて
座ザ麦アヒ料リョウハあじよりかた滞シヨク番ハンの目メ数カズ篠シヨウ客カクの多オホかふより
心ココロあつた
心ココロあつた
心ココロあつた
人ヒト一人ヒツト之ノ世ヨに半ナりて村ムラ中ノの人ヒトおもて老オホ實シツる人ヲ
山村ヤマムラハ一世シエ界カイとてシ和ワ薄ハク

花ハナ美ミ小コ後ゴろヲ中ナカかへし熱ネツ海カイ湯ユ治チよを本ホ者シャ後ゴの
中ナカ遊ユ山サンと潤ツク也ヤ是コノの雜ザ夢ムハ在アリ不ブるコトこゝろは
病ヤマイのゆへ人ヒト医イ療リョウの要ヨウ成チんキて又マタ温オン泉センを浴ユクし長チヤウ命メイを樂ガクむ
ゆへに老オホ温オン泉センに名ナ四シ方ホウふつても其コノ功コウ能ネ成チ詳セウゆへに人ヒト
は上ウエ梓シとて大オホ方ホウ示シえとよまへ編ヒン者シャの老オホ波ハ女メ心シンたり
文モン政テイ十ジュウ三サン年ネン秋アキ七シチ月ゲツ於オ熱ネツ海カイ客カク舍シャ一ヒツ冬トウ亭テイ下ゲ之ノ
後ゴ自コノ採サイ萃スイ

山東庵京山


熱海温泉図彙天尾

重圖

岩瀨京水

溪齋英泉

歌川國安

浴檜舎楓川

備書

天保三年辰秋 活寫卷中三頁

上梓卷宛

山口屋藤兵衛板

